日本気象学会

九州支部だより

No. 155　2025年12月

今回の記事

◆2025年度秋季大会の開催

◆秋季大会専門分科会の開催報告

発行者
日本気象学会九州支部
〒810-0052
福岡市中央区大濠1-2-36
福岡管区気象台
地域防災推進課内

Tel:　092-725-3614
Mail:　info@msj-kyushu.jp
HP：　http://msj-kyushu.jp/

2025年度秋季大会の開催

九州支部事務局

日本気象学会２０２５年度秋季大会が以下のとおり開催されました。会期中、会場やオンラインで過去最多の参加があり、盛況のうちに５日間の会期を終えることができましたので、簡単でございますが大会の模様を簡単にご紹介します。

日本気象学会２０２５年度秋季大会 In 福岡

■会期　　2025年11月4日（火）～11月8日（土）

■会場　　福岡国際会議場（福岡市博多区石城町2-1）

■参加申込　１０１１名（集計のある1990年以降では過去最多）

■研究発表

口頭：４１４件（専門分科会を含む）

ポスター：２２０件

※口頭発表はオンライン配信のハイブリッド

■その他

小倉特別講義、表彰式、受賞記念講演、委員会、研究会、懇親会（5(水)夜）

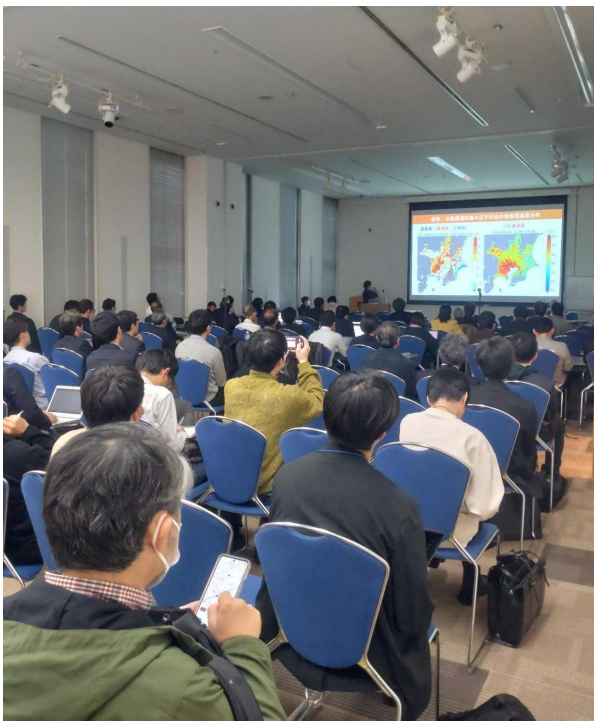
開催の様子

授賞式典における大会実行委員長挨拶
（中辻剛 福岡管区気象台長）

藤原賞、堀内賞、山本賞、小倉奨励賞
各賞受賞者

小倉特別講義の様子
（英国気象局　Adam Scaife 博士）

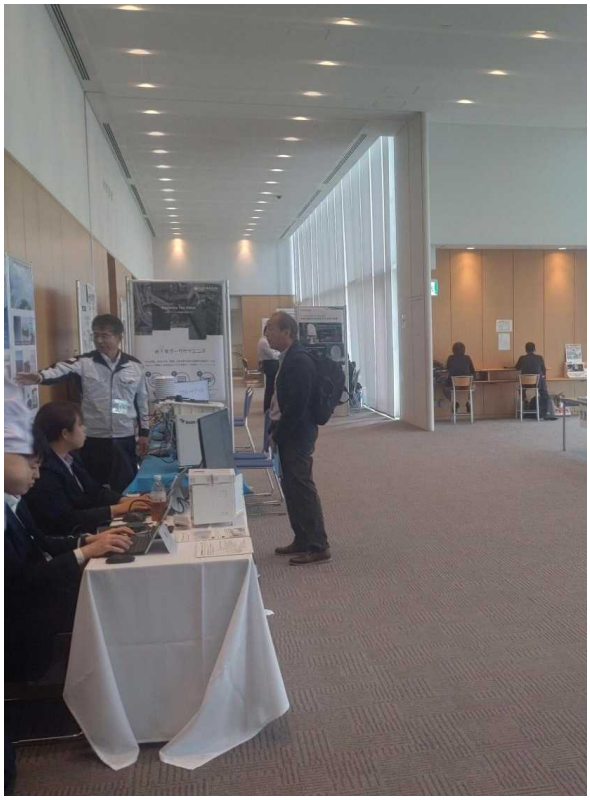
開催の様子



口頭発表の様子

ポスター発表の様子

開催の様子



協賛企業ブースの様子

懇親会の様子（５日夜開催）

来年、2026年度秋季大会は関西（京都）での開催となります。

奮ってご参加頂きますよう、引き続き宜しくお願い申し上げます。

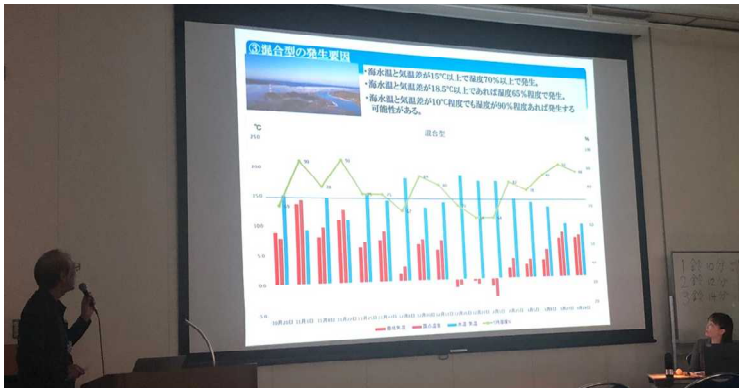
秋季大会専門分科会の開催報告

日本気象予報士会西部支部
専門分科会世話人代表
河野　香

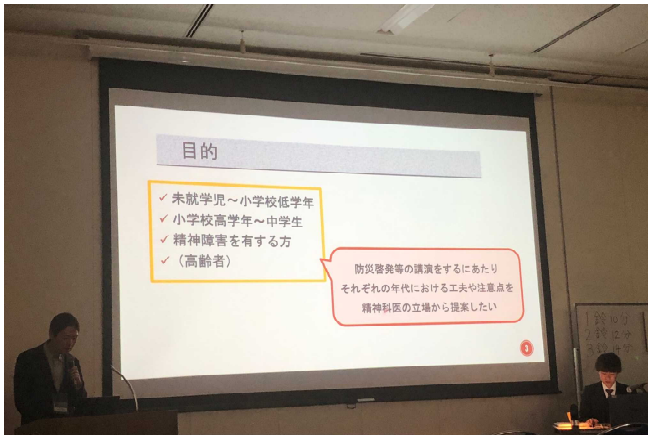
日本気象学会2025年度秋季大会が11月4日から8日に福岡国際会議場で開催され、日本気象予報士会西部支部では大会5日目の8日（土）午前に専門分科会を担当しました。日本気象予報士会では毎年、日本気象学会秋季大会で専門分科会を開催しています。世話人は開催地の支部が持ち回りで担当しており、福岡開催の際には西部支部が担当しています。

前回の福岡開催は2019年であり、当時を知る会員がごく少数である状況下で、約1年前から支部内で世話人を募り、協議を重ねながら、手探りで準備を進めることとなりました。テーマは『気象予報士の知識を活かした地域貢献を考える』とし、気象予報士による地域貢献のあり方を議論するため、地域に密着した気象防災アドバイザーの活動や局地気象の理解深化、産業や観光との連携、気象教育などの発表を募りました。発表は全９件で、日本気象予報士会員の発表が8件、気象予報士以外の方が1件でした。

はじめに岡留健二氏（日本気象予報士会　前学会連携担当理事）より、日本気象学会との連携活動について、本分科会の趣旨説明も兼ねて発表いただきました。招待講演の井上和博氏（日本気象予報士会/川内川あらし協議会）からは、川内川あらしの発生要因に関して、協議会独自の気象観測と経験則をもとに7名の気象予報士による発生予測が行われていること、それが地元連携による町おこしに繋がっていることが示されました。また、気象防災アドバイザーである舟津賢一氏（日本気象予報士会）は、地元で発生した災害を例に避難行動のタイミングとリスク認知の重要性について発表され、農業気象アドバイザーの育成に尽力されている斎藤典之氏（同）からは、その取り組みと現場での実践活動について紹介がありました。内山常雄氏（同）、山口颯仁氏（同/放送大学大学院）は、それぞれ独自の方法で気象データを解析し、地元の神奈川の温暖化、佐賀の大雨事例について発表されました。



井上和博氏による招待講演



西部支部会員の発表（平河則明氏）

西部支部会員の発表（山口颯仁氏）

本職での経験を活かした観点からの発表としては、平河則明氏（日本気象予報士会）が精神科医の立場から、子供の成長や障害の程度に応じた防災啓発のあり方について実践例を示され、さらに實本正樹氏（同/京都文教学園）より、通信制課程の元勤務校での学校設定科目「天気と気象」開設と教材化についての発表がありました。

気象予報士以外の方からは、神山翼氏（お茶の水女子大）が、日本プロ野球における本塁打数に気温が与える影響について、大リーグの先行研究をもとに独自の調査研究結果を示され、特に多くの学生が興味深く聴講していました。

当日の聴講者は会場で常時40名程度（最大で80名程度）、オンラインで40名前後に達し、気象予報士会員に限らず、気象を学ぶ学生や研究者の方々から質問やコメントをいただき、大変充実した分科会となりました。

日本気象予報士会西部支部は様々な職や経歴のある気象予報士が、広い活動地域（山口、福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎）のもと、毎月例会を開催しているのが特色です。例会では、防災教育や地域に密着した気象啓発活動の報告、“気象と〇〇（職や経歴による独自の視点）”、あるいは各地の気象台職員との情報・意見交換、天気図解析などを行っています。今回の専門分科会では、「例会」の延長線上に「学会」があり、学会の敷居は決して高いものではなく、各自の日々の活動や技術研鑽の積み重ねが学会発表につながることを学びました。

本分科会を採択いただいた日本気象学会講演企画委員会の方々、発表者の方々、当日聴講いただいた方々に心よりお礼申し上げます。